

犬の十戒 作者不詳
～犬から飼い主さんへのメッセージ～

My life is likely to last ten to fifteen years. Any separation from you will be painful for me. Remember that before you buy me.
私の寿命は10年。長ければ15年。何があっても最後まで、あなたのそばにおいてもらえますか。
私を飼う前に、どうかそのことをよく考えてください。

Give me time to understand what you want of me.
あなたが私に望んでいることを、ちゃんと分かるようになるまで少し時間をください。

Place your trust in me- it's crucial to my Well-being.
私を信頼してください。それが何より嬉しいのです。

Don't be angry at me for long and don't lock me up as punishment. You have your work your entertainment and your friends. I have only you.
私のことをずっと叱り続けたり、罰として閉じ込めたりしないでください。
あなたには仕事や楽しみもあるし、友だちもいるけれど、私には「あなた」しかいないのです。

Talk to me sometimes. Even if I don't understand your words, I understand your voice when it's speaking to me.
ときには私に話しかけてください。たとえ、あなたの話す言葉は分からなくても、
あなたの声を聞けば、私に何を言ってくれているのか、分かるのです。

Be aware that however you treat me, I'll never forget it.
私のことをいつもどんな風に扱っているか、考えてみてください。
あなたがしてくれたことを、私は決して忘れません。

Remember before you hit me that I have teeth that could easily crush the bones of your hand but that I choose not to bite you.
私を叩く前に思い出してください。私には、あなたの手の骨など簡単に噛み碎ける歯があるけれど、
決してあなたを噛まないようにしているということ。

Before you scold me for being uncooperative, obstinate or lazy, ask yourself if something might be bothering me. Perhaps I'm not getting the right food or I've been out in the sun too long or my heart is getting old and weak.
言うことをきかないとか、手におえないとか、怠け者だと叱る前に、そうさせてしまった
原因がなかったか、思い起こしてください。ちゃんとした食事をさせてもらっていたでしょうか。
太陽が照りつけている中に、長い間放っておかれたことはなかったでしょうか。
老いた私の心臓が弱っているせいで、動けないのかもしれませんが。

Take care of me when I get old; you, too, will grow old.
私が年老いても、どうか世話をしてください。私たちはお互いに、同じように歳をとるのです。

Go with me on difficult journeys. Never say, "I can't bear to watch it." or "Let it happen in my absence."
Everything is easier for me if you are there.

Remember I love you.
最期のお別れのときには、どうか私のそばにいてください。「つらくて見てられない」とか、
「立ち会いたくない」とか、そんなこと、言わないでほしい。
あなたがそばにいてくれるなら、私は、どんなことも安らかに受け入れます。

そして、どうぞ忘れないで。
私がいつまでも、あなたを愛していることを

参考●ウェブサイト「Somalism***【ソマリズム】」
管理人りんぼぼ&しゃおらん さん
※第1項 Any separation from you will be painful for me.については、「ほんのわずかな時間もあなたと離れているのは辛い」と訳されている場合が多いようですが、犬の気質を考えたとき、私たちには、犬たちが「どんな形の別れも辛い」＝「最期まで家族としてそばにおいてほしい」と訴えているように思えてならず、そのように訳しました。

今、インターネットの世界で「犬の十戒（左ページ）」という、作者不詳の短編詩が世界中にひろく伝わり、多くの人々の共感を呼んでいます。
日本では「犬と私の10の約束」という映画にもなりましたので、ご存じの方も多いのではないのでしょうか。
犬や猫などの動物は、私たちと同じ「命」ある存在です。動物に注ぐ多くの愛情とともに、守らなければならない使命と責任もあるということを、ここら辺で再確認しませんか。
今号特集のテーマは「動物（ペット）」。
飼い主さんの方、これから飼い主さんになる予定の方、飼い主さんになりたいと思っている方、皆さんに覚えておいてほしい様々なマナーやルールについて、今号では触れていきます。
動物は、あなたに愛情を注いでくれる大切なパートナー。
あなたも、あなたのペットが「一番幸せな生き方」を考えてみませんか。

「**Remember**
リメンバー・アイ・ラブ・ユー
I love you.」

—忘れないで。私はあなたを愛しています。

このページの写真はある犬の眼差しです。
情愛に満ちた吸い込まれそうな瞳でした。